

青少年教育施設を利用する引率指導者のための利用者ガイド（簡易版）

静岡県教育委員会社会教育課

青少年教育施設を安全に利用する上で、施設での安全対策と同様に大切なのが、団体の引率指導者自身の安全への意識と知識です。この「青少年教育施設を利用する引率指導者のための利用者ガイド（簡易版）」では、青少年教育施設を安全に利用する上での基本的な流れや、安全対策に役立つ情報を掲載しています。引率指導者のみなさんが、「活動を進める主体」という自覚をもち、安全を最優先に考えながら計画や準備を進めたり、青少年教育施設を有効に利用したりするために、大いに活用してください。

こちらは「簡易版」ですので、不明な点やもう少し詳しく知りたい点は「青少年教育施設を利用する引率指導者のための利用者ガイド」をご覧ください。また、「利用者ガイド」は、静岡県教育委員会社会教育課のホームページからもダウンロードできます。

青少年 利用者ガイド

検索



【引率指導者としての心構え】

ア 活動を推進する主体は利用団体であるという意識を常に持つ。

施設職員はサポート役です。活動によっては前面に出て指導に当たることもありますが、活動を推進する主体は利用団体であるという意識を常に持ち、通常と同じ指導を心掛けるようにしましょう。

- (1) 引率指導者の役割分担を明確にし、コミュニケーションを大切にしましょう。
- (2) 施設職員との事前打合せ、現地の下見を実施し、得た情報を活用しましょう。
- (3) 用具・装備の準備を万全にし、使用方法を熟知しましょう。
- (4) 最新の気象情報などを把握しましょう。（施設との情報共有を含む）
- (5) 自らの体調管理にも気を付けましょう。

イ 安全を最優先に考え、活動を計画、準備、実施する。

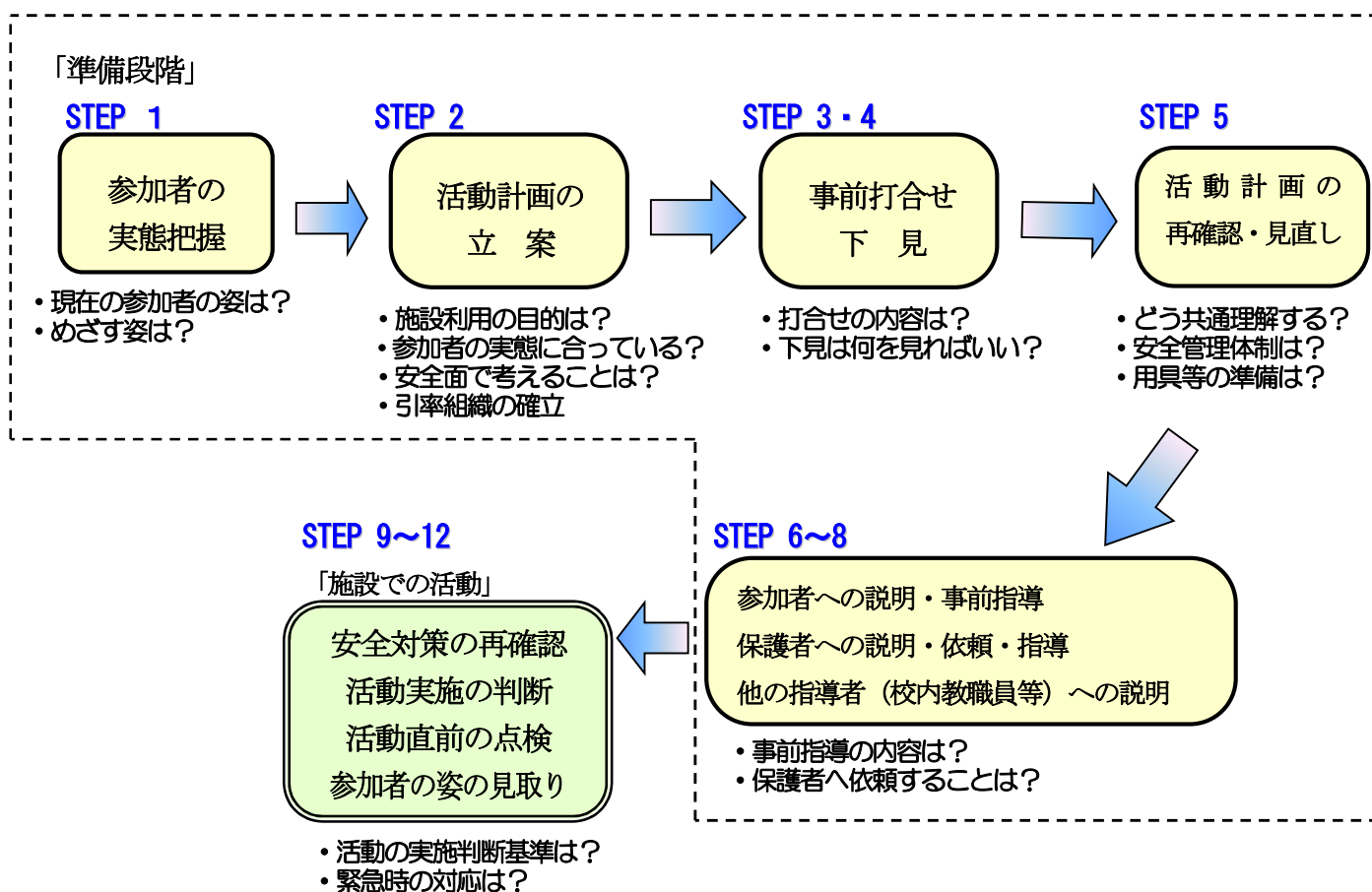
全ての活動や施設での生活では、安全を最優先に考えましょう。「危険な体験ほど教育効果が上がる。」という認識は間違いです。活動することもたちがその活動を実際に体験し終えることにより、教育的効果が上がります。したがって、活動が安全に完結されることが教育的効果を上げるための最低必要条件です。

- (1) 想定できるあらゆる危険を洗い出し、危険性の高低を確認しましょう。
- (2) 緊急対応のシミュレーションを行うなど、危険への対応を検討しましょう。
- (3) 救急処置の方法や手順について確認しましょう。

【引率指導者に求められること】詳しくは「利用者ガイド」2ページ以降をご覧ください。

求められること	効果
<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担とコミュニケーション ・最新の気象情報などの正確な把握 ・想定できるあらゆる危険の洗い出しと理解 ・危険への対応（シミュレーション） ・下見情報の活用 ・救急処置の知識と技能 ・万全な用具・装備の準備と使用方法の熟知 ・自らの体調管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織が円滑に機能 ・参加者の確実な見取り ・的確な状況把握 ・正確な実施判断 ・危険に対する意識付けと危険の回避 ・緊急時における冷静・的確な対応 ・安全な活動の実施 ・的確な判断、指示、指導

【施設利用の主な流れ】



【チェックリスト】 ～準備の段階で大切なこと～

STEP 1 「参加者の実態把握」 P5

- 参加者の現在の実態把握

STEP 2 「活動計画の立案」 P5

- 施設を利用する目的の明確化
- 参加者の実態に適した活動内容の立案
- ゆとりのある日程の設定、代替活動の準備
- その他 ()

STEP 3 「施設職員との事前打合せ」 P6

- 参加者の実態及び活動のねらいや内容の共有
- 引率指導者と施設職員との役割分担
- 活動プログラムの選定
- 水分の補給方法や適切な服装
- 活動の実施判断基準、判断方法
- 活動場所における危険箇所の把握
- 施設内における避難方法、経路
- 緊急時の搬送先（医療機関など）
- アレルギー対応、提出書類、連絡方法
- その他 ()

STEP 4 「施設・活動場所の下見」 P6

- 適切な活動内容及びコースの確認
- 活動場所の安全確認、危険な箇所などのチェック
- 施設内での緊急時の対応方法の把握
- 通信機器、通信状態の確認
- その他 ()

STEP 5 「活動計画の再確認・見直し」 P7

- 引率指導者全員による情報の共有
- 計画の見直し
- 安全管理体制・組織の整備
- 用具・装備の準備、確認
- その他 ()

STEP 6 「参加者への説明・事前指導」 P7

- 活動の目的や日程、内容の理解
- 安全に関する指導
- ルール・マナーの指導
- 避難経路及び避難方法の伝達
- 体調管理の指導
- その他 ()

STEP 7 「保護者への説明・依頼・指導」 P8

- 活動の目的や日程、内容の説明
- 家庭への協力依頼
- その他 ()

STEP 8 「他の指導者（校内教職員等）への説明」

P9

- 参加者の情報共有
- 団体内（校内教職員）の理解、協力体制の確立
- その他 ()



青少年教育施設での活動中に大切なこと

STEP 9 「施設内における安全対策の再確認」 P9

- 避難経路、避難場所の再確認
- 引率指導者の役割分担、動きの再確認
- 食物アレルギーへの対応状況を確認
- その他 ()

STEP 10 「気象状況などの把握と活動実施についての判断」

P9

- 気象状況などの把握
- 活動実施についての判断
- その他 ()

STEP 11 「活動直前の点検」 P10

- 参加者の状況（活動中、活動後も確認）
- 活動範囲や危険箇所
- 用具・装備
- 参加者自身の安全に対する意識
- その他 ()

STEP 12 「活動中の参加者の姿の見取り」 P11

- 活動中の参加者の姿の見取り
- その他 ()



【引率指導者の役割分担】

あくまでも例です。利用団体（学校）の実情に応じて、役割分担を設定しましょう。

☆施設利用（準備段階）における引率指導者の役割分担（例）

- 引率責任者（統括）
- 渉外担当（書類作成・提出、所員との連絡）
- 指導担当（プログラムの準備・指導）
- 会計担当（食事の注文や経費の支払）
- 救護担当（参加者の健康状態やアレルギー把握）

☆活動時における引率指導者の役割分担（例）

- 引率責任者（統括、実施判断）
- 行事担当者（統括、情報収集）
- 指導担当（活動の指導、参加者の把握）
- 監視担当（参加者の把握、緊急時の初動）
- 救護担当（傷病者の救護、医療機関との連携）
- 情報担当（天候などの情報収集、所員との連絡）

☆施設内緊急時における引率指導者の役割分担（例）

- 統括
- 避難誘導
- 人員・状況把握
- 救護
- 情報収集
- 施設職員との調整
- 火災時の初期消火
- 所属団体（学校）への連絡

【気象についての知識】

気象情報の収集方法（例）

●静岡県土木総合防災情報「サイポスレーダー」

注意報や警報、特別警報、県内 75 地点のピンポイント予報や、これからの雨雲の様子、落雷、台風、地震・津波や竜巻などの注意情報がわかる。（携帯サイトもある）



←「サイポスレーダー携帯版」QR コード

サイポスレーダー

検索

●静岡地方気象台のホームページ

・防災気象情報（注意報・警報）

→県内 37 地点における気象警報や注意報の状況や、「早期注意情報（警報級の可能性）」により、5 日先までの警報発表の可能性が発表される。

・「レーダー・ナウキャスト」

→降水や雷、竜巻のこれからの状況、地震や津波など

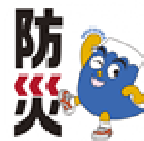
※スマートフォンアプリ「静岡県防災」をインストールすると、上記の情報へのリンクが貼られており、スムーズにアクセスできます。

静岡地方気象台

検索

静岡県防災

検索



●その他 活動中、天気の急変を予見する方法（例）

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷鳴が聞こえたり雷光が見えたりする
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- 大粒の雨や、ひょうが降り出す
（気象庁「局地的な大雨から身を守るために」より）

【ヒヤリハット事例】

過去に県立青少年教育施設を利用した団体から報告のあったヒヤリハット事例です。危険の洗い出しを行う際の参考にしてください。

プログラム中	<ul style="list-style-type: none"> ウォークラリー中にグループからはぐれてしまうこどもがいた。 ウォークラリー中、一般道で道に座り込みコースの検討をしていた。 サイクリングで自転車走行中に転倒した。 キャンプファイヤーの際、突風で炎や火の粉がこどもにかかりそうになった。 キャンドルサービスで燭台のろうそくに火を灯す時、下から上の順番でつけていたので、衣服に火がつく可能性があった。 キャンドルサービスで、火の神から火を渡そうとしたため、受け取る側のこどもの手にロウが垂れそうになった。 沢で足を滑らせ転倒したこどもがいた。 レクリエーション中にスリップして歯を損傷した。 靴下を履いて体育館で活動したとき、滑って転倒し、肘を打ってしまった。 野外炊事で、包丁やピーラーで指先を切ってしまった。 野外炊事で、熱くなった鍋に触れ、やけどをしてしまった。 野外炊事で、軍手をしていたが、思っていた以上に熱く、鍋を落としそうになった。 道幅が狭く、すれ違いが大変であった。崖に落ちそうになった。
自然に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 野外活動中、ハチやマダニに刺された。 雨が降っていたので、木の根や石で滑り、転倒するこどもがいた。 草がたくさん生えている所で半ズボン（体育着）で活動したため、足に草が当たり、少しかぶれてしまった。 動物が動く音が聞こえた。いのししやハクビシンが出て危険を感じた。 ハイキング中、天候が急変し、雨風で体温を奪われ体調を崩した。 野外活動中、気温が上昇し、用意した飲料水が足りなくなってしまった。 毒性のある植物等を知らずに触れそうになった。
生活中でのこと	<ul style="list-style-type: none"> 施設内での移動中、スロープの段差を踏み外し、転倒したこどもがいた。 施設内を走ってしまい、こども同士がぶつかることがあった。 施設内でスリッパを使用していたが、こどもの足とサイズが合わず転びそうになる子がいた。 食物アレルギーのものを配膳してしまった。 部屋のドアと床の隙間に指を挟んでしまったこどもがいた。 お風呂で溺れそうになったこどもがいた。 お風呂の床で足を滑らせ転倒した。

【青少年教育施設で起きた怪我ワースト3】

	1位：「打撲」 (175件/18.9%)	2位：「ねんざ」 (144件/15.5%)	3位：「やけど」 (138件/14.9%)
部位	1 「頭」 2 「顔」 3 「手・指」	1 「足首」 2 「膝」 3 「手首」	1 「手・指」 2 「前腕」 3 「膝」
要因	1 「不注意（本人）」 2 「不慣れ（本人）」 3 「注意不足 (指導・引率者)」	1 「不注意（本人）」 2 「不慣れ（本人）」 3 「失敗（本人）」 「不安定さ・滑りやすさ (環境)」	1 「不注意（本人）」 2 「不慣れ（本人）」 3 「注意不足 (指導・引率者)」

国立青少年教育施設における傷病の概況（令和5年度調査）より